2007年2月20日
（社）日本経済団体連合会

持続可能で国民の満足度の高い医療の実現に向けて【概要】

医療の持続性確保のためにはさらなる改革が必要

医療をめぐる不安と不満（現状の諸課題）

1）国民の視点
・不透明（情報不足）で硬直的（選択の余地が少ない）
2）保険者の視点
・情報不足による機能発揮の阻害
3）保険料負担者の視点（国民、企業）
・不透明な負担（拠出金等）への納得性の低下
・今後の保険料負担増加への危惧
4）医療提供者の視点
・効率的で質の高い医療提供の努力が報われない制度

今後の給付費増大要因
・超高齢化社会、生活習慣病予備群増大

国民の満足と制度維持を両立する医療は実現できるのか？

医療の持続可能性と満足度を高めるために

1）自分の健康を自らで守る

2）必要な時の備えとしての医療
・最適な医療による極力早期の社会復帰

3）公平で納得性の高い負担の分かち合い
・年齢に関わらず国民全体で公平に負担
・所得・資産に応じた高齢者の貢献

透明性の確保

○国、地方公共団体、企業、保険者、医療機関等による支援

国民の自立・自助と選択を前提とした医療

自立した国民による最適な医療の選択

個人の自立・自助の促進

1）公的医療保険は自助努力を超えるリスクへの備え
⇒真に医療を必要とする人に対する備え（セーフティーネット）
2）健康を守ろうと努力する人に対する支援
⇒保険者の役割を重視（専門的人材確保と情報の充実）
⇒自助努力の受け皿としての医療貯蓄口座の導入
⇒健康関連分野における多様なサービスの実現

質の高い医療の選択のために

1）最新の医療知識に基づく医療の確保
⇒保険医の資格更新制の導入
2）医療スタッフの実績や経験の評価（専門医制度の確立等）
⇒最適な医療の選択にあたっての判断基準の確立
3）患者の望むサービスの選択
⇒保険診療と保険外診療の組合わせの柔軟化

自立した国民に選択される医療の提供

効率的な医療提供体制の構築

1）医療機関の選択と集中による効率性の向上
⇒機能分化・連携の促進と機能に応じた決め細かな評価
2）「かかりつけ医」をガイド役とした医療の選択
⇒患者の総合的な支援
⇒健康管理と一体的なプライマリー・ケアの確立
3）患者からみて分かりやすい医療の実現
⇒標準的な診療行為への収斂と底上げ
⇒包括的な支払いの実施（支払基準の明確化）
・（外来）初・再診料、検査等の包括化
・（入院）1入院当りの定額制
・高齢者医療における看取りを含めた包括化
4）地域における医療の確保
⇒地方公共団体の創意工夫による医療の偏在への対応

粗診粗療がないよう保険者がチェック

透明化のためのICT化の推進

1）情報の共有　2）医療情報の収集・分析　3）制度運営の効率化

【国民・患者】
1）科学的な根拠に基づく安心な診療
2）選択基準の明確化⇒選択肢拡大
3）オンライン手続きなど利便性の向上

【保険者・負担者】
1）加入者への迅速な支援
2）医療の質・効率性チェック機能向上
3）事務負担の軽減

【医療機関等】
1）経営効率の改善
2）医療の質の向上
3）患者の資格確認等、事務の効率化

【国・地方公共団体】
1）国民生活の向上
2）データの充実と活用による医療の進歩
3）制度運営コストの改善

○国民、企業、保険者、医療機関等の努力が報われる制度
○効率性向上により公的保険給付の伸びを「高齢化修正GDP」程度で収斂
○日本の成長を支える医療産業の健全な発展

⇔ 公的医療保険制度の持続性確保 ⇒ 改革の工程を示し、国民の納得感と制度への信頼の確保に向け幅広く議論